

各 位

会 社 名 ジェイ・エスコムホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 丁 廣鎮
 (JASDAQ・コード3779)
 問合せ先 IR本部部長 福菌 雅士
 (電話 03-3507-6350)

平成20年3月期通期（連結）業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）の業績予想について、平成19年11月16日付当社「平成20年3月期中間決算短信」にて公表しました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想の修正等

通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,558	△195	△200	△205
今回修正予想（B）	330	△280	△280	△280
増減額（B－A）	△1,228	△ 85	△ 80	△ 75
増減率（％）	△78.8	－	－	－
（ご参考） 前期実績（平成19年3月期）	397	△308	△307	△375

2. 修正の理由

当社グループは、教育事業及び商事事業における部門収益の確保、並びにM&Aによる収益の確立を図ることが重要課題と捉えて、営業活動に取り組んで参りました。

しかしながら、教育事業並びに商事事業において、販路や商材の特定が出来ず、予想通りの収益の確保には至っておりません。また、M&Aによる収益の確立につきましても、想定していた成果には至っておらず、当期中における業績寄与が難しい見込みとなりました。これにより、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益において計画を下回ることが明らかになったことから、この度の業績予想の修正に至りました。

教育事業につきましては、今までの代理店を通じての販売方法を一新し、消費者保護法や内部統制管理が順守できるような直接販売による収益の確保を目指して参りました。下期におきましても、学校関係者を対象に、「有名私立校の現役講師による講演」などセミナーを開催することにより、市場を把握し、新商材の企画、開発、販売へと進めておりますが、市場ニーズに合致した商品開発、並びに販売ルートの確定に至っておらず、新商品の製作方法を検討しております。このような現況から、通期売上予想56百万円を5百万円に修正いたしました。

商事その他事業につきましては、化粧品等の新規消耗品商材により、定期購買による同事業の収益確保を目指して参りましたが、営業スタッフの確保及び教育に時間を要し、予定通りの営業活動に至っておりません。また、たのめーるチャイナにおきましては、上海におけるカタログ事業の低粗利率、競合環境が激化している現況を加味した上で、利益を確保できる方法を再検討しております。今後はカタログ事業以外においても、中国に進出している韓国企業の代理販売等での利益確保も目指して参ります。このような現況から、通期売上予想86百万円を18百万円に修正いたしました。

衛星放送事業につきましては、新規視聴者の獲得を目指した営業活動をして参りましたが、視聴メディアの多様化を背景として、スカイパーフェクTV!を通しての番組視聴者数が当初の想定以上に伸び悩んでいる現況から、通期売上予想3億16百万円を3億7百万円に修正いたしました。

M&Aによる収益の確立につきましては、投資金額に見合う案件を選定しておりますが、来期から導入される内部統制への対応、M&A後の管理体制についての強化など、現段階における案件成立にはなお一層の財務精査が必要と判断した結果、当期の売上予想11億円について見込まないことへ修正いたしました。なお、当社グループとして引き続きM&Aによる収益の確保を目指す方針は継続して参ります。

営業利益及び経常利益並びに当期純利益につきましては、売上減少分の影響があることから、当初予想を下回る見込みです。

3. 単独の業績予想について

単独の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、当初の予定に変更はありません。

※ 業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上